

『子供のための組曲』第5章」に挑戦しよう！

導入の授業でこの曲に出会うと、どの子どもの目も喜びとやる気に輝きます！その思いを原動力として、適切な教材の提示と指導法により、「やってみたい♡」「自分にもできそう♡」「できた♡」「もっとやりたい♡」と子どもの主体的な学びの授業が展開していきます。

授業計画

1時	2~3時	6~7時	8時	9~10時	11時		12~14時	15~18時	19時	20時
導入 鑑賞	和太鼓	三味線	箏	リコーダー	その他の楽器	オーディション	個人・パート指導	合奏指導	舞台出入り・通し	本番
一次：それぞれに完結した楽しい授業を！							二次：クラスで指導	三次：学年合同合奏授業		

一次

導入で音源を聴いた子供たちは「無理～♡」と言いながら、目をキラキラ輝かせます！全員が確実にできる各楽器の基本的な演奏指導をします。発展的な内容は休み時間に希望者に指導します。

オーディション

休み時間を割り当てたオーディション計画を明示して、一週間かけて丁寧にいきます。和太鼓⇒三味線…の順がお勧めです。オーディションは何度でも異なる楽器に挑戦可とします。

二次

パート譜を手渡し、丁寧に指導していきます（箏、三味線以外はスコアから作成して下さい）。

三次

学年合奏は楽器の準備が大変ですが、合同授業で空いた時間を使ってセッティングします。

- ・邦楽は、楽器の準備と片付けも演奏者が責任をもちます。舞台への出入りも重要な指導内容です。
- ・演奏会本番から逆算して、計画的に授業を進めていきましょう。大きな題材になりますが、特に一次は、楽器毎に完結した授業として設定します。和太鼓の授業から入るのがおすすめです。
- ・小規模校であれば5、6年の合同演奏も無理なくできます。
- ・紹介した動画は6年生ですが、5年生でも演奏可能です。

授業の準備

和太鼓2台、三味線3挺以上、箏3面以上を最低限そろえる必要があります。先生は三味線の調弦、糸が切れたときの張替、箏の調弦ができるようにして、先生自身が「いざ授業！」の内容を一通りマスターしておきましょう。基本的に和楽器は口唱歌で指導します。楽器分担が決まったら、太鼓の楽譜は拡大コピーして壁に貼っておくと、子どもたちが曲の全容が把握できて学習に有効です。

いざ授業！

導入の授業

4月の始めの授業で校歌や愛唱歌を歌ったりした後、「ところで今年は〇〇演奏会がありますね。〇年生はこの曲を合奏してみようと思うのだけれど、どう？」とCDをかけます（『長澤勝俊作品集 人間風土記』日本音楽集団CRD-1077）。いつも100%の支持率でした。

和太鼓の授業（4時間計画）

ねらい：和太鼓の演奏の技能を身に付け、和太鼓のアンサンブルを楽しむ。

《和太鼓1時間目》



和太鼓は、牛2頭と樹齢何百年もの木の命が注がれた楽器です。大切に打たせていただく、という気持ちで臨みましょう。
ばちは以下のどちらかの握り方で。



親指と人さし指でしっかりと握り、他の指は軽く添える。



小指と薬指と手のひらでしっかりと握り、他の指は軽く添える。



太鼓は据え置き。事前にビニールテープを貼って、足の位置を決めることがポイント。



① → ⑤の動きで子供の「身体」と「心」を開きます。

①



前へならえ！

②



腕を少し下げて…

③



ばちの先端が太鼓に当たるまで腰を割る。

④



その腰のままで真上にばちを上げて…

⑤



打つ！



Aのリズムを打ってみましょう！

A

ドン ドコ ドン ドン ドコ ドン カッ カッ
R LR L R LR L R L

※ドンは鼓面中央、カッは太鼓の縁打ち。

- 1) 全員で大きな声で唱歌を唱える。
- 2) ばちを持ったつもりで、空打ちをして、手を覚える。
- 3) 順番に打つ。

《和太鼓2時間目》



今日は、**B** のリズムに挑戦しましょう！

B ドッ ドー—— ドー—— ドー ドン ドコ
 L L L L **Ⓡ** LR

右腕 →

ここで思い切り打ち落とす。

左手を打っている間に、右腕は全て地上の空気を持ち上げるように天に向かって突き上げる。

A のリズムと同様に、唱歌や空打ちを有効に用いながら、全員が腰を割って打ち込めるようにします。先生は、生徒の前でしっかり腰を割り、腕の動きでリードし、テンポよく、適切に評価の言葉をかけましょう。

《和太鼓3時間目》



曲の仕組みが分かりますか？

- ・「カカカカカカカカ」×4小節の後、**A** と **B** を交代して打つこと。
- ・2回目のときは、**B** のリズムの「ド」は「カ」（縁打ち）になり、華やかさが増すこと。
- ・作曲者は強弱記号を指示していること。

曲集 p.54 : 32~43 小節参照

- ・「カカカカカカカカ」×4小節の部分は、唱歌に大胆に強弱をつけて表現することで、拍を意識させます。
- ・下の段の入りを唱歌で上手に誘ってください。
「ドン ウン ウン ウン ウン ウン ウン ウン はい ドン ドン ドン ドン ドコ ドコ ドコ」

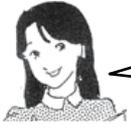
《和太鼓4時間目》

二人組で **A**、**B** のリズムアンサンブルに挑戦します。できたチームから前で発表。まわりの子どもは口唱歌で応援します！先生も一人一人に肯定的な評価の言葉かけをしましょう。



👉 三味線の授業(2時間計画)

ねらい:三味線の基礎的な技能を身に付け、冒頭部分を演奏できるようになる。



「① 2 3 4 5 6 ① 2 3 4 ① 2 3 4 5 6」と覚え、打つようにばちを落とすだけで弾けます。開放弦で3本いっしょに弾く①にアクセント、2～6は軽く三の糸のみを弾きます。

曲集 p.53 参照



次は「テンテケテンテン テケテンテンテン」です。
左手人差し指は、勘所10を押さえます。
右手のばちは、ずっと「テンテンテンテン」と。八分音符を刻みます。それができたら「ケ」のところで、ばちではなく、左手薬指で糸をはじきます。



曲集 p.53 参照

- ・民謡の三味線簡易伴奏で「ばちはバチッと！」で指導した方法を用いると、すべての子どもに達成感を味わわせることができます。
- ・授業で全員が取り組むのは、ここまでです。
- ・第一テーマ(50～59小節)は、希望者に休み時間などを利用して指導します。

曲集 p.53 参照

- 1) 左手人さし指で勘所3を押さえ、そのまま薬指を伸ばして勘所4。
- 2) 三の糸を3回「テンテンテン」とばちで弾いたら、
- 3) 4回目は、ばちではなく、左手薬指ではじき(ハ)
- 4) 5回目は、勘所3を押さえていた人さし指で糸をはじきます(ハ)

♥ 授業では、全員が主体的にできることに取り組み、発展的な内容は希望者に指導します。

弾けるようになった子どもは、オーディションで三味線を希望することが多いです。

👉 三次の合奏の授業では...

4拍子2拍子3拍子の難しいリズムも、全員で「ドダウンウンコキ コキドド ドドコキコキ」と、日本語の言葉にして唱えることで、いとも簡単に合奏を成立させていきます。

曲集 p.53 参照

1時間1時間の授業でのねらいを明確にして、子どものやる気を原動力として、基本的な技能を確実に身に付け、全員で音楽をつくり上げていく醍醐味を味わっていきましょう。